

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ) ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームきれんじゃくA棟	評価実施年月日	平成21年2月15日
評価実施構成員氏名	・ 福田 ・ 松山 ・ 佐藤 ・ 松原 ・ 後藤 ・ 池田 ・ 山本 ・ 長谷川 ・ 村中 ・ 小松 ・ 伊東		
記録者氏名	伊東	記録年月日	平成21年2月27日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、開設当初より運営理念・ケア理念を職員が作り上げ大事に受け継がれている。	○ 今まで同様に理念の大切さを職員に理解してもらい具体的なケアにつなげられるように努める。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	オリエンテーション・日々の申し送り・定例ミーティング等で理念の大切さを具体的に伝え理念に添ったケアが出来るように努めている。	○ 理念の内容を具体的に説明し職員が理念について大事なこととして捉えてもらえるように日々努めている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を家族・地域の人々・運営推進会議の構成メンバー・ボランティア・研修生(実習生)等に理解してもらえるように伝えている。	○ 地域に根ざしたグループホームづくりを理解してもらえるように今まで同様取り組んでいく。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩・近隣スーパーへの買い物・受診等に行った際、知人・地域の方が声をかけてくださったり、地域のボランティアの方が来訪されたりと日常的な付き合いができるように努めている。	○ 隣近所の方が気楽に立ち寄ってもらえるように工夫する事が今後の課題である。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	敬老会への参加・町内会のお祭りへの参加・末広地区社会福祉協議会主催事業であるふれあいサロンへの参加・年間を通し外出レク等で地域活動に参加し、地元の人々との交流の場を設けている。	○ 町内会の方にももっとグループホームに足を運んでもらい交流の場を広げていけるように努める。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	昨年8月より末広地区社会福祉協議会主催ふれ合いサロンに参加させていただいている。独居老人の生活相談を受ける事もあり少しでも地域の高齢者の方に役立てるように取り組んでいる。	○ 運営推進会議で地域の高齢者等の暮らしに役立つことはないか話し合いふれあいサロンに参加させていただく事になる。今後は認知症の方への接し方についての勉強会・見学会の受け入れも行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>利用者の方の状況を見ながら改善を図れるように取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>自己評価を行うことで、できていること、できていない事が明確になる。また、外部評価を実施することで改善に向けて取り組む事ができる。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議での意見をグループホームのサービス向上に活かしていけるように努める。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>集団指導への参加。その都度何か困る事があれば相談にいき連携を図れるように努めている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>外部研修等に参加し理解を深められるように努めている。</p>	<p>○</p> <p>成年後見制度の利用は、現状としては、難しい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止関連法の意義を理解できるよう内部研修・申し送り・定例ミーティング等で内容を解り易く説明し理解を得る。細心の注意を払い防止に努めている。</p>	<p>○</p> <p>虐待の内容を理解し事業所内で虐待が起こらないように細心の注意を払う。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の説明、解約時においても同様不安が生じないように説明を行ない理解・納得を得られるように努めている。</p>	<p>○</p> <p>重要な事なので十分に時間をかけて説明に努める。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日々の生活状態を見ながら、訴えが聞かれなくとも苦情・不満がないか傾聴し、運営に反映できるように努めている。</p>		
<p>家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>家族が面会に来訪されたときに、生活の様子・健康状態を伝えている。また、3ヶ月に一度近況報告書や行事参加写真を掲載したきれんじゃく便りを毎月発行している。金銭管理の報告についても同様に送付している。</p>	○	<p>来訪が困難な家族には写真も同封している。</p>
<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情箱を設置したりご家族に打診してみることで不満が生じないように努めている。</p>	○	<p>話しやすい環境であるか再度検討してみる。</p>
<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>不定期ではあるものの職員一人一人と面談を行ない、職員の意見を参考にして反映させている。</p>		
<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者・家族の状況変化に対応できるように勤務調整を行なっている。</p>		
<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>利用者へのダメージを防ぐ配慮に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	○	<p>自主研修を行うことで、学びにより職員の自信・働く意欲につなげられるように今年も年間6回実施の予定である。外部研修への参加する機会も増やしていく。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	○	<p>グループホームに求められることが膨大になりストレスを軽減できるように支援する必要がある。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		<p>具体的なアドバイスができるように努める。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	○	<p>本人の真意が表出できるように努める。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	○	<p>家族の真意が表出できるように努める。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容を傾聴しその人に合わせたサービスを照会している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所前に自宅訪問したり、家族と一緒に見学に来てもらい余暇の時間、おやつの時間等を過ごしてもらい少しでもホームの雰囲気に馴染んでもらえるように工夫している。	○	利用者の体調、都合の良い時間に合わせ無理のないように過ごしてもらい馴染みの関係をつくる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は入居者の気持ちに立って受け止める努力をしている。一人の人間として尊敬の気持ちを持って支援させていただいている。	○	高齢者の方を敬う気持ちを忘れずに支援させていただく。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の不安、困っていることを職員と一緒に考えながら本人を支えていく関係を築いていけるように努めている。	○	現状では、グループホームに足を運ぶことが困難な家族もいる。利用者の笑顔が見られるように家族関係が再構築できるように努めていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	認知症により家族関係に支障がきたしたとしても、グループホームで生活することで少しずつ認知症について理解が得られるように努める。以前のように関係が構築できるように努める。	○	職員だけでは限りがあり家族の力を得てはじめて最善な介護を提供できることを理解してもらえるように支援していく。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人・家族から情報収集し利用者が大切にしてきたことは、関係が途切れないように支援につとめている。	○	実際には、関係が途切れてしまっている方もいるが職員からの働きかけは継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士生活している中で支えあっている場面を目の当たりにしている。入居者一人ひとりが孤立せずに馴染みの関係が継続できるように努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された家族の方が、相談・、他入居者の顔を見に来られたり来訪されることがある。	○	退去されてからも手紙やウェス等送ってくれる家族がいる。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定例ミーティング等で情報交換を行ない本人の要望や思いの把握に努めている。利用者の方と会話の時間を多く持ち、要望に応える事が出来る様に努めている。困難な方については、今までのライフスタイルを基に検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活環境、暮らし、なじみの品、嗜好、既往歴等を本人・家族から情報収集して把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日報・個人記録・申し送りにて、全職員が把握出来る様努めている。日勤者から夜勤者、夜勤者から日勤者への申し送りを行ない、情報の共有に努めている。	○	職員間が連携して、情報の共有を図り今後も取り組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・家族より情報収集を行ない、意見や希望を聞いて計画に取り入れている。又、情報の共有を図る為、随時、サービス担当者会議を開催し、計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月モニタリングの実施、3カ月毎に評価を実施している。状態変化が生じた時には、サービス担当者会議を開催し、本人・家族より意見や希望を情報収集して、現状にあった計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、日報・個人記録・排便表に記録している。申し送り、伝達ノートにも記録して、情報を共有している。	○	ケアプランに添った個人記録の記入に努めている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	同事業所のサービスの音楽会や催し物等に参加して、一緒に楽しんだり親睦を図っている。法人のパワーリハビリを活用することで意欲の向上を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	毎年地域の中学生の体験学習、専門学校生の実習・ボランティアの訪問等の受け入れをして支援している。警察へは、緊急時(行方不明等)グループホームの状況を伝え協力体制を得られるように努めている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要なサービスを利用できるように支援している。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センター主催である研修に参加したり、センター職員が来訪されたりと交流を図っている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	提携医療機関と、適切な医療が受けられる様に支援している。	○	ターミナルケアが必要とされる方が増えてきているため連携を密にしている。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	法人の医師に相談したり、必要に応じ専門医療機関を受診し適切な治療を受けられるように努めている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	法人の看護師に相談しながら日常の健康管理・適切な医療機関への受診の支援を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	環境の変化による混乱、認知症の進行等、入院による弊害が見られる場合には、病状にもよるが速やかに退院させてもらえるように協力を得ている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所の段階から本人・家族から希望を聞きながら慎重に取り組んでいる。重度化した場合においては、本人・家族・担当医師・看護師・職員等と繰り返し相談しながら方針を立てている。ターミナルケアについては、同意書を交わし状態変化があればその都度確認を取りながら行っている。	○	状態変化に伴い家族と繰り返し話し合い、文章で同意書を交わしている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ターミナルケアについてどの様に支援すべきかグループホームでできる事とできない事を明確にして、医師・看護師より助言・指導・情報を提供してもらい支援に努める。	○	医療連携が不可欠である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>環境の変化等によるダメージを防止して、以前と同じ生活が続けられる様に、住替え前より、本人・家族・ケア関係者で情報の交換に努めている。</p>	○	<p>十分に情報を収集しいままでの居室のつくりを参考に、しつらえる。本人が大切にしている思い出の品を持参してもらい環境の変化によるダメージを防ぐことに努める。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>人生の先輩に対して敬い・慈しむ気持ちでプライバシーを損ねない声かけ、個人情報の保護を行っている。</p>	○	<p>自分では気がつかないこともあるのでミーティング・申し送り等の中で話し合う場を設けている。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自己決定ができるような言葉かけが出来るようにつとめている。意思の疎通が困難な場合は、個人に合わせた(ジェスチャー・筆談等)対応をすることで自己決定できるように支援している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースに合わせて、食事・入浴の時間、排泄等、要望に添ってケアができるように努める。その人らしく、生活を送る事が出来る様に支援している。</p>	○	<p>業務が優先してしまわないように心がけて支援に努める。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>個々の好みに合わせた身だしなみが出来る様に努める。近隣の美容室を利用したり訪問理容を利用して、本人が望むおしゃれが出来る様支援をおこなっている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>職員と一緒に食事をして、毎食後に利用者が役割と認識をして、食事の片付けや食器拭きを一緒に行ってくれている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	各担当者が嗜好を調べ体調やその時の状態にあわせて、日々楽しんでいただける様に支援している。	○	個々の状態・嗜好に合わせて楽しんでいただけるように支援する。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄リズムの把握、声かけを行っている。スムーズにいかないようであれば、サービス担当者会議を開催して、原因を探り対応を考える。安易に紙オムツを使用しないように努めている。また、羞恥心に配慮して、気持ちよく排泄出来る様に支援している。	○	安易に紙おむつを使用しないように排泄リズムの把握に努める。また、自尊心を傷つけないように気持ちよく排泄出来る様に支援していく。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の意向に添って、時間帯・曜日を選んでもらいくつろげるように入浴していただいている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活リズム・就寝時間・睡眠時間を把握し、日中の運動や散歩を奨励するなど安眠対策を考慮し、無理な睡眠を強要する事なく、穏やかに過ごせるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとり生活歴を参考にしながら、何を望み喜びとなるのか、職員間で検討して支援している。買い物や散歩・行事等、また行なえる範囲で、食器拭きの手伝いや家事等の役割を持って楽しく生活出来る様な場面を見出せるように支援している。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	少額ではあるが管理されている方がいる。入居者の能力に応じ家族との相談の上、支援している。	○	個人の能力に応じ金銭管理をしている。近隣スーパーへの買い物・毎週火曜日にパン屋が来訪しており、自分の欲しいものを購入している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ホーム周辺を散歩したり、ドライブや買い物へ出かけたり、と一人ひとりの要望に合わせて対応を行っている。外食や行事等、積極的に外出できる環境を心がけ支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個々に対応したり、外出レクリエーション等で希望に添い支援している。家族と一緒に買い物、外食等出かけられるように支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人より希望があれば、いつでも電話できる様に努めている。家族との関係を大切にすることで孤独感を解消して、穏やかに生活をする事ができる様に支援する。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人、友人等気軽に訪問できるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	緊急時以外は、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。身体拘束の理解を深めてもらう為定例ミーティング等で具体的に説明し理解を得られるように努める。	○	緊急時以外は、身体拘束をしないように努める。身体拘束をした場合、弊害についても理解が得られるように職員教育に努める。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	24時間施錠しない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は、プライバシーに配慮し安全に生活出来る様に努めている。	○	ヒアリハット・事故報告書を提出してもらい事故防止に努めている。事故再発防止にも役立っている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	保管場所を周知し、細心の注意を払い、危険のない様取り組んでいる。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者の状態を把握して事故が無いように取り組んでいる。		ヒアリハット・事故報告書を提出してもらい事故防止に努めている。事故再発防止にも役立っている。行方不明による緊急時の対応マニュアルを作成中。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変・事故発生時のマニュアルに基づいて対応を行っている。昨年の合同ミーティングのテーマが急変時の対応ということで再確認している。定期的に訓練を受けている。	○	緊急バック・蘇生バックを常備し、定期的に物品チェックをして緊急時に備えている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に防火訓練を行っている。又、緊急連絡網があり、連絡体制が整っている。	○	消防署・地域の方々にも、協力を得られる様に努める。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者に状態変化が見られた場合、早急に家族に連絡し報告している。又、リスクについての様々な状況を説明して、対応策について話し合い最善方法を考え支援している。	○	家族・関連スタッフと思索しながら最善を尽くせるように支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日、バイタルチェックと、利用者の様子の変化に気を配り、異変があれば提携医療機関へ連絡して指示を受ける。又、職員間でも申し送り・伝達ノートを見て情報を共有する。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>職員は薬の目的・副作用・用法・容量について理解できるように、スタッフルームに処方簿があり、全職員が目を通せる状況になっている。又、症状の変化についても確認に努めている。</p>	○ 全職員が把握できるように努める。
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>繊維質の多い食品や乳製品を摂取したり、体操やレクリエーション等で体を動かす働きかけを行っている。</p>	○ 排便表にて便秘の確認を行ない、個々に合った対応を行っている。
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアの施行、状態に応じ支援している。定期的に歯科往診を受けたり、助言等をしていただいている。</p>	○ 口腔ケアは、高齢者にとって大事なケアのひとつであることを認識し支援していく。
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>個々の状態を把握しその日の状態を観察して、一日の水分量・食事量を確保する。また、水分量・食事量のチェックを行っている。習慣に応じた支援も行っている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症マニュアルがあり、各対処法に添った感染症予防に努めている。定期的に、内部研修があり、職員間での対応の統一を図っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所フキンやタオル、入居者のオシボリ等は食後に毎回消毒している。調理器具も夕食後に毎回消毒して、清潔衛生の保持に努めている。新鮮な食材を仕入れ、管理している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>ハード面が難しい為、苦慮している部分もあるが、玄関・出入り口がグループホームであることが案内板や玄関周りの飾りつけ等で工夫している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>不快な音や光がない様に配慮している。季節に合った花や野菜を育てたり、漬物をつけたり居間に季節の飾りつけをして、穏やかに心地よく過ごしていただける様に支援している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>多目的ホール・スタッフルーム・自室等、自由に行き来している。気の合う同士が、カウンター前のソファで笑顔で話しをされている光景を目にする。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入所の際には、馴染みの物や使い慣れた物をもってきていただいている。気持ちの安定につながり、以前と同様に居心地よく過ごしていただけるように配慮している。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>気になる汚物の臭いは、トイレの除菌・芳香剤の使用・また、汚物を新聞紙に包みこまめに廃棄している。温度計・湿度計を設置して温度を一定に保てる様に、換気にも配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		



. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input checked="" type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている  <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている            あまり増えていない            全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が  <input checked="" type="radio"/> 職員の2/3くらいが            職員の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が  <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが            利用者の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が  <input checked="" type="radio"/> 家族等の2/3くらいが            家族等の1/3くらいが            ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 開設当初より運営理念・ケア理念を作り上げ大事に受け継がれている。理念に基づいたケアを実践し職員間で共有している。母体が医療法人なので医療連携のもと安心して生活ができる。利用者・家族・医療・グループホーム職員が最善方法を考え連携してターミナルケアまで取り組むことができるように支援している。職員同士お互いに信頼することでチームケアに反映されている。家族の方が、足を運んでくださり、一緒に過ごしてもらうことで、心温まる場面をよく目にする。職員だけでは、限りがあり家族の方の協力ををいただきより良い介護を目指している。笑顔が絶えない職場作りを心がけていきたい。

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームきれんじゃくB棟	評価実施年月日	平成21年2月15日
評価実施構成員氏名	・福田 ・高畑 ・山口 ・星 ・久田 ・坂本 ・菅野 ・大西 ・中塩 ・伊藤 ・伊東		
記録者氏名	伊東	記録年月日	平成21年2月27日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、開設当初より運営理念・ケア理念を職員が作り上げ大事に受け継がれている。	○ 今まで同様に理念の大切さを職員に理解してもらい具体的なケアにつなげられるように努める。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	オリエンテーション・日々の申し送り・定例ミーティング等で理念の大切さを具体的に伝え理念に添ったケアが出来るように努めている。	○ 理念の内容を具体的に説明し職員が理念について大事なこととして捉えてもらえるように日々努めている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を家族・地域の人々・運営推進会議の構成メンバー・ボランティア・研修生(実習生)等に理解してもらえるように伝えている。	○ 地域に根ざしたグループホームづくりを理解してもらえるように今まで同様取り組んでいく。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩・近隣スーパーへの買い物・受診等に行った際、知人・地域の方が声をかけてくださったり、地域のボランティアの方が来訪されたりと日常的な付き合いができるように努めている。	○ 隣近所の方が気楽に立ち寄ってもらえるように工夫する事が今後の課題である。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	敬老会への参加・町内会のお祭りへの参加・末広地区社会福祉協議会主催事業であるふれあいサロンへの参加・年間を通し外出レク等で地域活動に参加し、地元の人々との交流の場を設けている。	○ 町内会の方がグループホームに立ち寄ってもらえるように交流の場を広げてく。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	昨年8月より末広地区社会福祉協議会主催ふれ合いサロンに参加させていただいている。独居老人の生活相談を受ける事もあり少しでも地域の高齢者の方に役立てるように取り組んでいる。	○ 運営推進会議で地域の高齢者等の暮らしに役立つことはないか話し合いふれあいサロンに参加させていただく事になる。今後は認知症の方への接し方についての勉強会・見学会の受け入れも行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>利用者の方の状況を見ながら改善を図れるように取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>自己評価を行うことで、できていること、できていない事が明確になる。また、外部評価を実施することで改善に向けて取り組む事ができる。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議での意見をグループホームのサービス向上に活かしていけるように努める。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>集団指導への参加。その都度何か困る事があれば相談にいき連携を図れるように努めている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>外部研修等に参加し理解を深められるように努めている。</p>	<p>○</p> <p>現状では、制度の利用は、難しい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止関連法の意義を理解できるよう内部研修・申し送り・定例ミーティング等で内容を解り易く説明し理解を得る。細心の注意を払い防止に努めている。</p>	<p>○</p> <p>虐待の内容を理解し事業所内で虐待が起こらないように細心の注意を払う。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の説明、解約時においても同様不安が生じないように説明を行ない理解・納得を得られるように努めている。</p>	<p>○</p> <p>重要な事なので十分に時間をかけて説明に努める。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の生活状態を見ながら、訴えが聞かれなくとも苦情・不満がないか傾聴し、運営に反映できるように努めている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族が面会に来訪されたときに、生活の様子・健康状態を伝えている。また、3ヶ月に一度近況報告書や行事参加写真を掲載したきれんじゃく便りを毎月発行している。金銭管理の報告についても同様に送付している。	○	来訪が困難な家族には写真も同封している。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情箱を設置したりご家族に打診してみることで不満が生じないように努めている。	○	話しやすい環境であるか再度検討してみる。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	不定期ではあるものの職員一人一人面談を行ない職員の意見を参考にして反映させている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者・家族の状況変化に対応できるように勤務調整を行なっている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者へのダメージを防ぐ配慮に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	○	<p>自主研修を行うことで、学びにより職員の自信・働く意欲につなげられるように今年も年間6回実施の予定である。外部研修への参加する機会も増やしていく。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	○	<p>グループホームに求められることが膨大になりストレスを軽減できるように支援する必要がある。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		<p>具体的なアドバイスができるように努める。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	○	<p>本人の真意が表出できるように努める。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	○	<p>家族の真意が表出できるように努める。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容を傾聴し、その人に合ったサービスを照会している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所前に自宅訪問・施設訪問をしてコミュニケーションが図れるように努める。また、家族と一緒に見学に来て、余暇の時間等を過ごしてもらいホームの雰囲気に馴染んでもらえるように支援している。	○	利用者の体調・都合の良い時間に合わせ無理のないように過ごしてもらい馴染みの関係を作る。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者と喜怒哀楽を分かち合い、その瞬間瞬間を大切に共に過ごしていけるように努める。尊敬の気持ちを持って、支援させて頂いている。	○	高齢者の方を敬う気持ちを忘れずに支援させて頂く。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族が抱えている悩みや不安を職員が、一緒に考えて互いに支え合い、信頼関係を築いていけるように努めている。	○	現状では、グループホームに足を運ぶことが困難な家族もいる。利用者の笑顔が見られるように支援をし家族関係が再構築出来る様に努めていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の間に支障があっても、グループホームでの生活を本人が営むことで、関係性が円滑になるように努めている。	○	職員だけでは限りがあり家族のお力を得て最善な介護ができることを理解してもらえるように支援していく。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人、家族から情報を収集し、これまでの関係や大事にしてきたことが途切れないように支援、配慮に努めている。	○	実際には途切れてしまっている方もいるが職員の働きかけは継続していく。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日常生活の中で、互いが支えあっている場面に遭遇している。入居者同士が手をつなぎあったり、助け合ったりしている。喧嘩になりそうな時は、仲裁に入ったりと良好な関係を支えあっている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された入居者の家族が時折、相談に来られたり、故人の元気だった頃の思い出話をしに来訪されたりしている。	○	退去した家族から、手紙・電話をいただくこともあり、ウエス等を送ってくださる方もいる。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定例ミーティング等で情報交換を行い本人の要望や思いの把握に努めている。入居者と共に過ごすことで本人が何を求めているか汲み取る。又、その思いに応えられるように努めている。家族への電話の取次ぎ、入浴時間、衣類、献立等希望に合わせている。	○	今までと同様支援していく。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族から生活歴、生活習慣、既往歴等の情報収集を行い、把握に努め、グループホームでの生活に活かしている。	○	これまでと同様把握に努める。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	その日の勤務者は、出勤時に申し送りノートに目を通し把握に努めている。主に日中は日勤者が入居者の状態を把握し、他職員が特変に気付いた時は、必ず日勤者に伝える。日勤者から夜勤者、夜勤者から日勤者に申し送りを行い、常に情報が共有し活かせるように努めている。	○	職員間で共有できるように今後も取り組んでいく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族、必要な関係者より、介護支援専門員が中心に情報収集を行なう。毎月、情報の共有を図るため、モニタリングを行ない、ケース担当者から介護計画に基づいて目標が達成されたか否かを報告している。新しい生活課題の発見もあり、チーム全員で介護計画作成に携わっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月モニタリングを行い3ヶ月に一度評価を実施している。心身の状況に変化が生じた時は、本人、家族、必要な関係者を交えてサービス担当者会議を開催し、介護計画の見直しを行い、現状に即した計画を作成をしている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、日報・個人記録、温度板、睡眠表、排便表を記録している。申し送り、伝達ノートに記入して情報を共有している。	○	ケアプランに添った個人記録の記入に努めている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	母体が医療機関なので希望する利用者には、パワーリハビリを利用したり、併用施設のデイサービスの行事に参加させてもらっている。		通所リハビリテーション施設のPTより、個人の状態に合わせたりハビリのアドバイスの協力を受けている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察の協力体制、消防訓練、毎年地域の中学校の体験学習、専門学校の実習生、ボランティアの受け入れをしている。各機関等と協力しながら支援している。	○	今後も受け入れをしていく。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要なサービスを受けられるように支援している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センター主催の研修に参加したり、地域包括支援センターの方が来訪され交流を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	法人の担当看護師に相談しながら、日常の健康管理、適切な医療機関への受診の支援をしている。	○	ターミナルケアが必要とされている方が増えてきているため連携していく。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	法人の医師に相談したり、必要に応じ専門医療機関を受診し適切な治療を受けられるように努めている。		
45	看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	法人の医療機関の看護師に相談しながら、日常の健康管理、適切な医療機関への受診の支援をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	環境の変化による混乱、それに伴う認知症の進行等、入院による弊害がみられる場合には、病状にもよるが速やかに退院させてもらえるように協力を得ている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所の段階から希望をききながら、慎重に取り組んでいる。重度化した場合においては、本人、家族、担当医師、職員と繰り返し相談しながら方針を立てている。早い段階からターミナルケアについての同意書を交わし、状態の変化があれば、その都度確認をとっている。	○	状態変化に伴い家族と繰り返し話し合い、文章で同意書を交わしている。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	事業所として出来ること、出来ないことをチームで話し合いながら、取り組んでいる。医師、看護師より情報提供してもらい職員が共有して、今後予測できる状態については職員が不安のないように取り組んでいる。	○	医療連携が不可欠である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人、家族、ケア関係者間でサービス担当者会議を開催し、情報交換をして住替えによるダメージを防ぎ、以前の生活が継続できるように努めている。</p>	○	<p>十分に情報を収集する。今までの居室のつくりを参考に、しつらえる。本人が大切にしている思い出の品を持参してもらい環境の変化によるダメージを防ぐことに努める。</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>常に高齢者の方を人生の先輩として尊敬する気持ちを忘れずに対応させていただいてる。自尊心を傷つけることのないよう、言葉がけに注意し、安心感を持っていただけるよう対応に努めている。記録時はイニシャルを使用して個人情報の取り扱いにも注意している。</p>	○	<p>自分では気が付かないこともある為定例ミーティング・申し送り等で話し合う場を設けている。</p>
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人が意思決定できるように個々の能力に合わせて対応している。職員との信頼関係を築くことで本人の意思が表出できるように努めている。</p>		
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、本人のその日の状況を観察し、本人が現在どのように過ごしたいのか、希望にそって支援している。</p>	○	<p>業務が優先してしまわないように心がけて支援に努める。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の意思を尊重している。本人の好みに合ったものを購入したり、その日の衣服を選んで着てもらっている。理美容も家族と出かけたり、訪問理容を利用したり本人の意思、好みにより、おしゃれを楽しんでいる。</p>		
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者が楽しく食事が摂れるように職員が雰囲気作りを心がけている。その日の状態に合わせて一緒に準備や後片付けをしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者個々の好みに合わせて楽しめるように支援している。	<input type="radio"/>	個々の状態・嗜好に合わせて楽しんでいただけるように支援する。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄のリズムの把握、声かけを行い、上手くいかないようであれば、サービス担当者会議を開き、検討して原因を探り対応を考える。安易に紙オムツ、紙パンツにしないように努めている。羞恥心に配慮して気持ちよく排泄が出来る様に支援している。	<input type="radio"/>	安易に紙パンツ・紙おむつを使用しない。排泄のリズムの把握に努め、自尊心を傷つけないように気持ちよく排泄できるように支援していく。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望している時間に入っただき一対一の対応でゆっくりと入浴ができるように支援している。	<input type="radio"/>	入浴中に本心を聞くことができるので、大切な時間として捉えている。これからも気持ちが和らぐ入浴支援をする。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人が希望する場所で休息している。個々の記録により就寝時間、睡眠時間を把握し日中の運動、散歩を奨励するなどの安眠対策を考慮している。無理な睡眠を強要することなく穏やかに過ごしていただけるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴、これまでの生活を参考にしながら、現状では何を望み、喜びと感じてもらえるのか、本人、家族、職員間で検討し対応できるように努めている。買い物や散歩などの外出、レクリエーション、パワーリハビリ、また可能な範囲で家事や軽作業の手伝い等それぞれが楽しく活動できる場面を見出している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者の能力に応じ家族との相談の上、支援している。	<input type="radio"/>	スーパーでの買い物やパン屋さんが毎週火曜日に来訪しているが、購入方法は個人の能力に合わせて行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、野外のレクリエーション、外食等入居者の希望にそった外出ができるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出レクリエーション等で希望に添い支援している。家族と一緒に買い物、外食等出かけられるように支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	入居者個々の状態に合わせ、入居者の希望する家族との交流を支援している。	○	家族の支えが一番であることを理解してもらえるように支援する。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人、友人等気軽に訪問できるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束をし ないケアに取り組んでいる。	緊急時以外は身体拘束を行なわないケアに取り組んでいる。身体拘束の理解を深め もらえるように定例ミーティング等で具体的に説明し取り組んでいる。	○	緊急時以外は、身体拘束をしないように努める。身体拘束をした場合の 弊害についても理解してもらえるように職員教育に努める。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	24時間施錠しない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は、プライバシーに配慮して安全に生活出来る様に努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	保管場所等を職員一人一人周知し危険を防ぐ取り組みをしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	入居者の状態を把握して事故の無いように取り組んでいる。	○	行方不明による緊急時のマニュアル作成中。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変・事故発生時のマニュアルに基づいて対応を行っている。今年の合同ミーティングのテーマが急変時の対応ということで再確認している。	○	緊急バック・蘇生バックを常備していつでも使用可能な状態に備えている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に防火訓練を行っている。又、緊急連絡網があり、連絡体制が整っている。	○	消防署・地域の方々にも、協力を得られる様に努める。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者に状態変化が見られた場合、早急に家族に連絡し報告している。又、リスクについての様々な状況を説明して、対応策について話し合い最善方法を考え支援している。	○	家族・関連スタッフと思索しながら最善を尽くせるように支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日のバイタルチェックと、入居者の様子の変化に気を配り、異変があれば法人医療機関へ連絡して指示を受ける。又、職員間でも申し送り等にて情報を共有する。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>職員は薬の目的・副作用・用法・容量について理解できるように、スタッフルームに処方簿があり、全職員が目を通せる状況になっている。又、症状の変化についても確認に努めている。</p>	○ 全職員が把握できるように努める。
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>繊維質の多い食品や乳製品を摂取したり、体操やレクリエーション等で体を動かす働きかけを行っている。</p>	○ 排便表にて便秘の確認を行ない、個々に合った対応を行っている。
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアの施行、状態に応じた支援をしている。定期的に歯科往診を受けたり、助言等をしていただいている。</p>	○ 口腔ケアは、高齢者にとって大事なケアのひとつであることを認識し支援していく。
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>個々の状態を把握しその日の状態を観察して、一日の水分量・食事を確保する。また、水分量・食事量のチェックを行っている。習慣に応じた支援も行っている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症マニュアルがあり、各対処法に添った感染症予防に努めている。定期的に、内部研修があり、職員間での対応の統一を図っている。</p>	



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所フキンやタオル、入居者のオシボリ等は食後に毎回消毒している。調理器具も夕食後に毎回消毒して、清潔衛生の保持に努めている。新鮮な食材を仕入れ、管理している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>ハード面が難しい為、苦慮している部分もあるが、玄関・出入り口がグループホームであることが案内板や玄関周りの飾りつけ等で工夫している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>不快な音や光がない様に配慮している。季節に合った花や野菜を育てたり、漬物をつけたり居間に季節の飾りつけをして、穏やかに心地よく過ごしていただける様に工夫している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>多目的ホール・スタッフルーム・自室等、自由に行き来している。気の合う同士が、カウンター前のソファで笑顔で話しをされている光景を目にする。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入所の際には、馴染みの物や使い慣れた物をもってきていただいている。気持ちの安定につながり、以前と同様、居心地よく過ごしていただけるように配慮している。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>トイレの除菌・芳香剤の使用・気になる汚物の臭いは、新聞紙に包み消臭している。温度計・湿度計を設置して温度を一定に保てる様に、換気にも配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者</p> <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族</p> <input checked="" type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように</p> <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> なまに <input type="radio"/> ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている  <input checked="" type="radio"/> ① 少しずつ増えている            あまり増えていない            全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が  <input checked="" type="radio"/> ① 職員の2/3くらいが            職員の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が  <input checked="" type="radio"/> ① 利用者の2/3くらいが            利用者の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が  <input checked="" type="radio"/> ① 家族等の2/3くらいが            家族等の1/3くらいが            ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 開設当初より運営理念・ケア理念を作り上げ大事に受け継がれている。理念に基づいたケアを実践し職員間で共有できるように努めている。母体が医療法人なので医療連携のもと安心して生活ができる。利用者・家族・医療・グループホーム職員が最善方法を考え連携してターミナルケアまで取り組むことができるように支援している。職員同士お互いに信頼することでチームケアに反映されている。家族の方が足を運んでくださり、一緒に過ごしてもらうことで、心温まる場面をよく目にする。職員だけでは限りがあり家族の方の協力をいただき、より良い介護を目指している。笑顔が絶えない職場作りを心がけていきたい。